

災害の記憶を想起させる装置としての

原状記録と現物資料の研究

Research on Records of Original Order and Materials
as a Factor Remember Memory of Disaster

学籍番号：201621605

氏名：川浦 瑞花

Mizuka KAWAURA

東日本大震災以後、災害の記憶と記録を保存する活動が国内外の各地で広まった。保存された記録を活用するためには、記録研究が必要であると考えられている。しかし記録研究の方法論は未だ確立されていない。また近年注目され始めた、記録と場所の関係に着目した研究も充分に行われていない。

そこで、本研究では原状記録と現物資料を用いた方法で、記録と場所の関係性を明らかにすることを目的とした。対象は福島県双葉町役場埼玉支所及び旧埼玉県立騎西高校避難所から保全された記録とし、原状記録と現物資料にはそれぞれ、校舎内を撮影した写真と支援品である千羽鶴を用いた。データ作成及び分析はアーカイブズ学の考え方にに基づき、記録の元の状態や他の記録との関わりなどといった原状を尊重して行った。

原状記録を元に分析した結果、記録の元の場所や状態だけでなく、どのように利用されていたのかなど利用に関することの推測が可能になることがわかった。一方現物資料を分析した結果、記録そのものから作成地や作成者、計画性や支援の意思表示などといった作成に関することが推察できるとわかった。更に原状記録と現物資料を併せることで、避難所内外のあらゆる人々が集まっていた場所を特定することができた。

今回の結果から、災害の記録研究において原状記録と現物資料を用いることは、記憶と場所の関係性を解明するにあたり有効である。またこの 2 つを分析することにより、作成から利用までといった記録に関することを広く理解することが可能になると考えられる。

研究指導教員：白井 哲哉

副研究指導教員：宇陀 則彦